

平成 25 年度（第 1 回）高岡市男女平等推進市民委員会

会議録（要旨）

○ 日 時 平成 25 年 8 月 29 日（木） 10 : 00 ～ 11 : 30
○ 場 所 高岡市役所本庁舎 3 階庁議室
○ 出席者 ・ 委 員 14 人（永山会長、吉田副会長、飯野委員、伊藤委員、大平委員、尾崎委員、北野委員、小泉委員、小間委員、澤委員、高梨委員、平尾委員、向委員、六瀬委員） ・ 高岡市 8 人（高橋市長、岡田経営企画部長、山口経営企画部次長、柴田男女平等・共同参画課長、太田男女平等推進センター所長、大野副主幹、竹内主査、小泉主事） ・ 傍聴者 0 人
○ 内 容 1 開 会 2 市長挨拶 ● 市長 ・ 皆様方には、日頃から、本市における男女平等・共同参画の推進に格別なご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。 ・ 人口減少、高齢者の増加、生産年齢人口の減少など、社会問題になっている中で、男女共同参画社会の実現は、21 世紀の我が国の最重要課題と位置づけられている。本市においても、これまで、市民の皆様のご協力のもと、男女平等・共同参画を推進するため、その基礎となる枠組みの整備を進めてきている。 ・ 昨年度からは、男女平等推進プラン後期事業計画やDV対策基本計画に基づく取り組みを進めており、本年度は、特に、男女平等推進プランの重点課題に掲げている「ワーク・ライフ・バランスの推進」や「DVの予防啓発」に取り組んでいる。 ・ 本日は、各種施策・事業の推進状況についてご報告し、皆様方には男女平等・共同参画社会の実現に向けて取り組むべき課題についてご審議願いたい。また、皆様からいただいた貴重なご意見については、今後の市の施策に反映していきたいと考えており、忌憚のないご意見を賜りたい。 3 会長挨拶 ◎ 会長 ・ 毎日の新聞報道を見ても、女性の就労や女性に関することが記事にでない日がない。国を挙げて女性の就労、男女共同参画の推進を進められている。 ・ この会議では、高岡市での男女平等・共同参画の取り組み状況について、皆さんで検討しながら、よりよい市民生活になるよう、この会議が活用されたらよいと考えているので、忌憚のない意見をいただきたい。

4 議事

- (1) 高岡市男女平等推進プランの取組状況
- (2) 高岡市DV対策の取組状況

◎ 会長

- ・ 始めに、「高岡市男女平等推進プランの取組状況」と「高岡市DV対策の取組状況」について事務局より一括してご説明いただきたい。

● 事務局

- 男女平等推進プランの取組状況を、資料 1、2 により説明 —
- DV対策の取組状況を、資料 3 により説明 —

5 意見交換

◎ 会長

- ・ ただ今の説明で、何かご質問やご意見はあるか。

○ 委員

- ・ DV対策の取組状況について、DVは女性から男性への暴力もある。専任相談員に男性はいるか。DV件数の1割くらいが男性への暴力であり、フィンランドでも同じくらいの割合になっている。大阪府では男性相談員（心理カウンセラー）がいる体制がある。

● 事務局

- ・ 専任相談員3名はいずれも女性。相談者の中には男性も若干いる。ただし、DVについては、女性被害者が圧倒的に多いこともあり、相談室への相談も女性が多く面接に来られることから、男性からの相談は、電話のみで受ける工夫をしている。
- ・ DV加害者と思われる方からの相談で、自分から直していきたいと思われる意思がある方には、石川県に男性の加害者への回復プログラムを持っている施設があるので、本人が希望すれば、その施設を紹介している。

○ 委員

- ・ 男女平等・共同参画についての市民意識調査を行う予定があるか。活動団体は、市と協働する意識が高いので、調査研究に協力する思いがある。
- ・ DV被害者が避難するDVシェルターの設置予定はあるか。

● 事務局

- ・ 男女平等推進プランを策定する前に、市民意識調査を行った。また、後期事業計画を策定する際に、その前年度に、富山県男女共同参画推進員高岡連絡会が行われたミニ地区懇談会で、参加者にアンケート調査を行い、計画策定に反映させている。次の計画策定の際にも、意識調査を行い、計画への反映を考えている。
- ・ DVシェルターについて、県外には、民間が運営するステップハウスがあるが、県内では県が持っている一時保護施設のみ。市では、センター相談室と、警察や県女性相談センターなどDV関係機関で構成する連絡会を持っており、情報交換を行っている。また、DV相談について民間団体と共通理解を図るための懇談会を行っており、その中で意見を聞いている。また、昨年度、男女平等推進センターに配偶者暴力相談センター機能を整備したことから、県のDV対策関係機関連絡会に、当センターも参画しており、関係者が集まる

中でシェルターを含めたDV対策で、関係機関の方々がどのような思いを持っているのか把握していきたい。

◎ 会長

- ・ 県の施設はどのようなところなのか

● 事務局

- ・ 県の施設は一時保護施設で、緊急・一時的にその施設で被害者が生活する。保護期間は2週間程度と聞いているが、程度によっても異なってくると思う。

○ 委員

- ・ 民生委員・児童委員の活動もしている。過去にDV被害者だった親子を支援しているが、2人が一緒に病気になったときに、2人を保護する場所がないことが分かった。高岡市では母子寮がなくなり、シェルターもないので、頼れる場所がない。児童相談所に事前に相談していれば、保護をお願いすることもできるが、相談前だと行けない。生活困窮の親子などが駆け込める場所があればよいし、生活保護や市営住宅などの支援があるが、お金と場所があればそれだけでよい訳ではなく、被害者に対する細やかな声掛けも必要。そのあたりも気にかけていただければ、より手厚い高岡市になると思う。

○ 副会長

- ・ 推進プランの参考指標に掲載されている、スクールカウンセラーとスクールカウンセリング指導員、スクールソーシャルワーカーとは、どのようなものか。

● 事務局

- ・ スクールカウンセラーは、主に臨床心理士で、児童本人の心のケアを行っている。スクールカウンセリング指導員は教員で、本人や家族から教育相談を受けている。スクールソーシャルワーカーは、社会福祉士など福祉専門家で、福祉機関と連携しながら、家庭環境などの児童を取りまく環境の改善を行っている。

○ 委員

- ・ 推進プランの参考指標の「夫は家事や育児に協力してくれていると思う妻の割合」では、9割を超えているが、妻たちの夫に対する協力の期待値が低いと思う。そもそも協力してくれるという意識より参画していると思うことが、男女平等・共同参画になると思う。今後の調査では、協力という問いかけではなく、夫がやっているかという問いかけに工夫しないと、男女平等・共同参画という意識に変わらない。数値の見えない部分への意識が必要だと思う。
- ・ DVの自助グループ活動を行っている。昨年度は2か月に1度の開催だったが、参加者の意識が高く、今年度は毎月1回開催している。参加者は、話し合いによってエンパワーされていることがわかる。
- ・ 男女平等推進センターのホームページについて、いつの間にかアドレスが変わっていて、市のホームページからは探し辛い。市のトップページから見られたらよいのだが。

● 事務局

- ・ 高岡市として、ホームページを統一的にすることでわかりやすくした。男女平等推進センターのページに辿り着きやすいように工夫をしていきたい。

○ 副会長

- ・ 父と子を対象としたイベント開催の必要性はあるのか。

● 事務局

- ・ 子育てというと母親や祖母がするとのイメージがあるが、高岡市では、父親や祖父を交えた子育て「粋メンプロジェクト」を行っている。少子高齢化になると、働く人が少なく、働く女性が多くなり、男性も今まで通り働くだけではなく、子育てへの参画が必要となる。

○ 委員

- ・ 様々な団体の方がこの委員会に参加しているが、各団体での取り組みや委員皆さんの意見を聞きたい。
- ・ 婚活の支援を行っているが、結婚して子供を産まないと少子化が解消されない。結婚活動をする機会についても考えてほしい。また、老人化率が30%以上に上がっていくが、高岡市が安全・安心で暮らせる立派な市になってほしい。

○ 委員

- ・ 地域女性ネット高岡では、高岡市からファミリー・サポート・センターの委託を受けている。高岡市でも子育て支援に力を入れて、学童保育の充実などを図り、働く男女の支援を行っているが、隙間がある。時間的に誰も子どもを見られない時間を、ファミリー・サポート・センターで見ている。先日、学童に行く時間に30分空きがある子どもを預かったが、今の子どもたちについて学び・経験した。最近、隣に誰がいるか分からない、孤独死などの問題もあるが、地域で子どもを預かるなど地域ネットワークが進んでいけばよい。それには男性・女性関係なく、地域ぐるみでできればよいと思う。

○ 委員

- ・ 社会福祉協議会、高岡市民生委員・児童委員協議会の会長もしているので2つの立場からいうと、今年は気温が高く一番心配していたのは孤独老人の独居死であり、地域の民生委員・児童委員が家庭を訪問して注意を促した。我々だけでは見て回ることが難しいので、地域の方の協力があれば我々にも情報が入ってきてきやすくなる。
- ・ DV被害者が増えているのにシェルターが県内に1か所なのは心細く感じるが、DVの相談件数について聞きたい。

● 事務局

- ・ 平成24年度のDV相談件数は延べ1,911件になっている。相談室では家庭問題などDV以外の相談も受けており、相談件数は全体で3,300件余りであり、内56.5%がDV相談になっている。相談件数やDV相談件数は伸びてきている。DV問題はこれまでなかったのではなく、顕在化してきて、本人の自覚と相談しようという思いになり、相談件数が伸びていると思う。県の調査結果では、5人に1人がDVを受けたという結果もある。

○ 委員

- ・ 女性の参画が必要との考えから審議会等の女性委員比率などの目標を挙げられているが、これまで女性が行っていた仕事に男性が就くことも進んでいる。高岡市での男性保育士の数はどれくらいか。また、市議会での女性委員の数は。

● 事務局

- ・ 男性保育士は6人、市議会議員では女性議員は1名いる。

○ 委員

- ・ 全国的にも男性看護師は少ない。1週間前の三重県の新聞に、男性看護師が語り合う記事があり、患者さんから男性看護師では看護は無理と言われたり、リハビリを嫌がった老夫人が、男性看護師にだっこされたら翌日からリハビリを頑張ったりするとかの話があり、いろいろ葛藤があるよう。

○ 委員

- ・ ワーク・ライフ・バランスについて、未就学児は保育所に延長保育で預かってもらえても、小学生は遅くまで預かってもらえる施設がないので、仕事を辞めたり仕事を変えたりするお母さんが多数いると聞いている。目的では、午後7時まで開所する放課後児童育成クラブを、平成28年度までに全27クラブにするとなっているが、増加率はこれでよい。
- ・ ワーク・ライフ・バランス推進事業所について、7月10日開催のワーク・ライフ・バランス推進シンポジウムでは、介護施設のアルテン赤丸さんが事例発表されて、介護施設の特性から職員の勤続年数が短いことを聞いて驚いた。アルテン赤丸さんでは、児童を預かる保育を行っているが、介護施設なので放課後児童育成クラブの補助金を受けられないで困っている話があった。既存のものを活用することが本来の目的だと思うので、その辺の柔軟性がないのかと疑問に思った。

● 事務局

- ・ 放課後児童クラブについて、午後7時まで開所は、できるところからできるだけ早くに開所できるように取り組みながら、平成28年度までに目標を達成できるように取り組んでいく。
- ・ 皆さんの求められていることに支援できるように、検討していきたい。

6 会議のまとめ

◎ 会長

- ・ 市当局においては、本日各委員から出された意見・提案等も踏まえ、今後、各種施策の推進に努めていただくよう要望する。また、各委員には、今後とも、それぞれのお立場でのプラン推進にご協力いただくように要望する。

● 市長

- ・ DVについては、男性からの相談への対応の工夫や、発生している事象へのソフト面での対応が必要であり、問題点を提起いただければと思う。
- ・ 保育所や看護現場に男性職員も増えてきている。意欲のある男性には積極的に挑戦してほしい。
- ・ 市役所内での管理的立場の女性職員登用については、比率は伸びている。今後とも積極的に女性の登用を図っていきたい。

● 事務局

これで本日の高岡市男女平等推進委員会を終了とする。